

4. 教育(防災のための)

4.1 適切かつ効果的な学習効果を目指す。

- ・世代に合わせた防災教育の大綱を作成して、継続的にあらゆる場面で実施できること
- ・発生時の対応に加えて、事前の知識を構築すること
- ・防災に関する基本的なことを共有する
- ・発生時の情報の取得方法並びに評価して行動できる判断力に力点

4.7 持続可能な開発のための教育および持続可能なライフスタイル、文化的多様性と文化の持続可能な開発を促進するための知識および技能の習得

- ・地域防災の基本は、地域の特性を理解すること
- ・なにが、どこが危険なのかを資料収集することで共有しておく
- ・危険予知サインを決めておく
- ・風化している災害文化の発掘
- ・古来からの土地利用、現状の課題、改善できる、すべきことの峻別

4.b 情報通信技術 (ICT)、技術、工学、科学プログラムなどの活用

- ・獲得できた情報で、予測する、シミュレーションする、演習に慣れる
- ・防災は日常的な知識であるとの認識を備える、生活防衛は経済だけでない
- ・必ず起きる対岸の災害事例をあらゆる機会にわが身に置き換えて訓練する (防災はあらゆる領域と学際領域になっているので、あらゆる機会、場面で学習が可能)

5. ジェンダーの平等

5.5 あらゆるレベルの意思決定において、完全かつ効果的な参画および平等なリーダーシップの機会を確保

- ・女子の潜在能力を活用するために、防災教育を充実させる。子ども家族を守るための正しい知識を獲得してもらう
- ・できるだけ複眼的な目線で、防災を構想することが底上げにつながる。
- ・子どもを通しての情報は、地域のコミュニティーの形成の鍵になる

5.b 能力強化促進のため、ICTをはじめとする実現技術の活用を強化する

- ・適切な情報の受け手、そして伝達するツールの開発が急務
- ・感覚として、お徳感を出せるようなものにする、”こうすればこうなる”ことを明確に発信する
- ・適正な情報をいかにして拡散するのが重要なポイント

6. 水と衛生

6.2 常に下水施設・衛生施設へのアクセスの確保、ニーズの確保

- ・インフラの耐震化、排水能力の見直し、排水施設の立地状況の評価
- ・災害発生時の処理方法についての質、量、衛生の面からの検討 (簡易的なものの大量供給、簡易な一次処理)
- ・防災教育の中で、この分野の正しい知識による行動を身につける)

- ・ 日常時と緊急時との環境の違いに対応できるキャンプ的能力を身につけておく

6.6 山地、森林などの水に関する生態系の保護・回復を行う

- ・ 災害となる土砂生産、流出水の起源は山間部、その健全さを維持することが重要
近年は、山地の劣化で、土石流や流木災害が発生、降雨水が時差なく流出
- ・ 森林環境を見直す、林業経営の変革(自伐的林業、混交林への転換、適正な間伐等)
- ・ 災害という点からの都市部からの関心を高める環境教育
- ・ 水の循環について、生命の基幹であること、維持継続するための学習する機会を多くする
- ・ 水の問題について、上水、下水を切り口にした水道環境を学ぶ
- ・ 水の扱い、振る舞いを知らないと身に降りかかる災害にもなる
- ・ 水を制することが、生命の維持継続にかかわっている。水環境の健全化

6.b 水と衛生にかかわる分野の管理向上における地域コミュニティの参加を支援強化する

7. 現代的なエネルギー

7.2 再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大する

- ・ 自然環境の健全化と同意義、現在の課題の洗い出し
- ・ 一挙に解決すものは無く、一人ひとりの関心度による、政策に活かす努力が必要
- ・ 自然災害の誘因となる気候変動が進行中、規模、頻度に変化
- ・ 小さい数値が巨大は環境に異変を起こす、地球のシステムを知る。
- ・ 正しい知識を、正しいデータで読む
- ・ 危機感を共有しないと、” ゆで蛙” になる

7.3 エネルギー効率を倍増する

- ・ 生産する側と消費側（使い方）での取り組みが重要。技術開発の最大の難関はコストと環境負荷だが、ライフサイクル的な工夫での全体的なメリットを考える
- ・ 可能な限り自然エネルギーやバイオエネルギーを導入する。地産地消が理想、地方再生とも関係していて、総合的な施策の立案と実施
- ・ 国土利用についてゾーニングの導入、土地の供託の促進することで、被災、災害を抑制、遊水地による水害の抑制、災害対応費用は無駄と認識すべし（死の商人は望ましくない）

7.a クリーンエネルギー技術への投資を促進する